

---

# 密室へようこそ

いおすけ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

密室へようこそ

### 【Nコード】

N6267C

### 【作者名】

いおすけ

### 【あらすじ】

ある日僕の目の前に僕の死体がいっただい誰が何の目的で・・・

人は死ぬと

自分の姿を空中から眺めるって  
どこかで聞いたことがある。

たしかにそうだった

眼下の僕は便器に腰かけ

頭から血を流して死んでいる。

映画なんかだと壁をすり抜けて

ふらふら出歩けるけれど

どうやらそれはフィクションのようだ。

分かるのはここから見える範囲の事だけ。

自殺か？他殺か？

自殺の動機は無い

特にいい事も無かった代わりに  
嫌なことも無かったはずだ。

友達もいた

いいやつばかりじゃないけど。

彼女もいた

すごく美人ではなかったけど。

不意にチャイムが鳴る

玄関のドアから声がする。

「そのまま聞いて、昨日のこと謝ろうと思って来たの。もし許してくれるなら開けて。」

しばらくの沈黙

彼女の声だ

その時、僕の体が仰向けになる。後頭部が壁にぶつかって派手な音をたてる。

「いるんでしょう？」

外まで聞こえたのだろう

彼女の声は涙声に変わっていた。

やがて立ち去る足音。

倒れた僕の体の影に

今まで見えなかった血に染まったはさみ。

凶器に違いない

一体誰が……

ドアにはもちろん鍵がかかっている。

争った形跡はない。

ふと視線を上げる

それを見たときたん全ての謎が解けた。

フラッシュバックする記憶。

そこにあっしたのは

袋とじ付きの雑誌（もちろん大人向け）

切れたトイレトペーパーを補充しようと手を伸ばした僕に  
前日置き忘れたはさみが襲い掛かった。

もし僕に袋とじを素手で切り開く勇気があれば起こらなかった  
不幸な事故だった。

そのとき

棚のトイレトペーパーが転がり落ちて  
ぼくの股間を隠す。

いつか誰かがこの現場を発見して  
この真相を解き明かすだろうか？

恥ずかしくて死にたい。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6267c/>

---

密室へようこそ

2011年1月24日20時43分発行